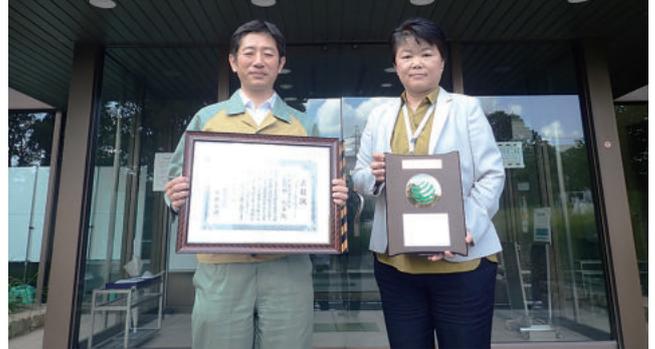


「Q-ton Circulation」がオゾン層保護・地球温暖化防止大賞および 気候変動アクション環境大臣賞をダブル受賞

先端技術応用研究所 先端技術ソリューショングループの中山研究主査が開発した工場向けの空気熱源循環加温ヒートポンプ「Q-ton Circulation (キュートン サーキュレーション)」について、第24回オゾン層保護・地球温暖化防止大賞および令和3年度気候変動アクション環境大臣表彰を受賞しました（三菱重工サーマルシステムズ株式会社との共同受賞）。

「Q-ton Circulation」は温水を効率よく製造できるヒートポンプで、工場の洗浄工程等に多数採用されています。今回の受賞は、日本で初めて冷媒R454C（地球温暖化係数が従来の10分の1）を採用し、環境負荷を大幅に低減するとともに、業界初となる外気温度マイナス20℃の環境下でも75℃の温水を取り出せるようにした

ことが技術的に高く評価されたものです。



左から開発者の中山さんと所長の石川さん

第66回 澁澤賞を受賞

第66回（令和3年度）日本電気協会澁澤賞贈呈式が11月19日、東京都千代田区の東京商工会議所渋谷ホールで開催され、賞状が受賞者に贈呈されました。

澁澤賞は、故 澁澤元治博士が昭和30年に文化功労者として表彰を受けられた栄誉を記念し、昭和31年に創設され、電気保安に優れた業績を上げた方々を対象に表彰するもので、各界より広く認められる権威ある賞です。

今回は、発明・工夫、設計・施工部門として「風力発電所用新型雷撃検出装置の開発」で鹿島 直二さん（技術開発本部 電力技術研究所）が受賞しました。
※中部大学（山本和男教授）と共同開発

受賞技術は、風車に3個の磁界センサーを取り付け、落雷で発生する磁界の大きさと方向から対象風車への落雷を正確に特定するものです。着想から長期にわたって実

際の風車を用いたフィールド試験を実施し、地道に装置の評価、改良を重ねて製品化したことが高く評価されました。



贈呈式会場にて（鹿島さん）

「テクノフェア2021」を開催 WEB展示会を併用し最新の研究成果を紹介

今年で29回目となる「テクノフェア2021」は、新型コロナウイルス感染防止対策のため、昨年に続き、「大高展示会」は、会場の展示数を厳選し、事前予約制とするなど規模を縮小し、10月28日（木）、29日（金）の2日間、開催しました。

また、当社ホームページ上の専用サイトで、研究成果を紹介する「WEB展示会」を併用し、10月28日（木）から12月24日（金）まで公開しました。

「大高展示会」では、テーマに「レジリエントで最適なエネルギーサービスの提供」、「暮らしを便利で豊かにするサービスの提供」、「ビジネスのお客さま向け取り組み」、「原子力安全技術の向上」に加えて、「脱炭素化に向けた取り組み」を新たに掲げ、火力発電所における水素・アンモニアの混焼に関する研究など、研究成果を40件紹介しました。

「WEB展示会」では、音声や動画を多用しながら、60

件の研究成果を紹介しました。

パソコンやスマートフォンなどの端末から6093名の方に研究成果を閲覧していただきました。

今後、「脱炭素化」、「DXの加速」など社会が変容する中、社会課題の解決に向けて様々な研究開発に取り組んでまいります。



大高展示会の様子